

# 福井県における戦前の保育の動向について (1)

## — 小濱尋常高等小學校附属保育科の沿革 —

松川 恵子・増田 翼

(2012年1月31日受理)

### 1 はじめに

日本で初めて幼稚園が設立されたのは、明治9(1876)年、東京女子師範學校附属幼稚園であるが、福井県ではいつ頃保育施設が創設され、どのように現在につながってきたのだろうか。筆者(松川)は10数年前からこのような疑問を抱いてきた。

福井県の教育全体の歴史については、『福井県教育百年史』<sup>1)</sup>に概観され、幼児教育についても、福井県学事年報や福井県統計書等の信憑性の高い資料を基に整理されている。しかし、明治20年代、明治40年代、大正時代というように、一定の期間ごとにまとめられているため、つながりが捉えにくい面もある。

そこで、本研究では、『福井県教育百年史』を基に、福井県における明治20年代から第二次世界大戦前までの保育の動向について、各保育施設の系譜(縦軸でのつながり)を捉えていきたい。まず、今回は、『福井県教育百年史』に福井県で一番最初に設立されたと記されている小濱尋常高等小學校附属保育科の沿革に焦点を当てて調査したい。

### 2 研究方法

#### (1) 文献調査

##### ①『福井県教育百年史』

『福井県教育百年史 第1巻』(昭和53年)及び『福井県教育百年史 第2巻』(昭和54年)を基に、福井県の戦前の保育の動向及び小濱尋常高等小學校附属保育科(小浜幼稚園)の沿革を探る。

##### ②『小濱小學校沿革誌』

小濱尋常高等小學校附属保育科(小浜幼稚園)について記述されている文献を求めて小浜市立図書館を訪問した際、『小濱小學校沿革誌』を紹介された。『小濱小學校沿革誌』は、明治34(1901)年5月、当時小濱小學校校長であった江口成徳が、「小濱小學校ノ沿革ヲ誌セント欲シ公務ノ餘暇其ノ創立前後ノ事蹟ヲ探ク」<sup>2)</sup>って記した小濱小學校最初の沿革誌である。その中に、「小濱幼稚園沿革記事」<sup>3)</sup>がある。「幼児保育所」の発起者の一人である江口成徳が著した記事であるということから、この「小濱幼稚園沿革記事」は信憑性の高い資料であると考えられる。

そこで、『小濱小學校沿革誌』から、明治20(1887)年から明治34(1901)年までの小濱尋常高等小學校附属保育科(小浜幼稚園)の沿革を探りたい。

#### (2) 訪問調査

##### ① 小浜第一保育園園長への聞き取り調査

平成23(2011)年12月8日に小浜第一保育園を訪問し、園長(大岸和恵氏)から小浜幼稚園が小浜保育園に移行したことにに関して話を伺った。文書等は残っていないということであったが、第二次世界大戦終戦間際の昭和20(1945)年に、園長の実母である宮田玉子氏が保育園に就職したという事実を聴取した。

##### ② 宮田玉子氏への聞き取り調査

平成23(2011)年12月23日に宮田玉子氏宅を訪問し、宮田玉子氏と大岸和恵氏(小浜第一保育園園長)に、終戦直前から終戦後の小浜第一保育園に関する話を伺った。

〔表1〕 福井県における戦前の保育施設の状況

年(西暦)	施設名	
	公立	私立
M20(1887)	小濱尋常高等小學校附属保育科(小浜町立小浜幼稚園、遠敷郡小浜町)	
M22(1889)	福井尋常師範學校附属幼稚科	
M25(1892)	宝永尋常小學校附属幼稚科(福井市宝永中町) ↓ 春山尋常小學校附属幼稚科(福井市春山下町)	
M26(1893)	↓ 順化尋常小學校附属幼稚科(福井市佐佳枝中町)	
M35(1902)		
M37(1904)		
M41(1908)		栄冠幼稚園(福井市宝永上町)
M44(1911)		美光幼稚園(福井市佐佳枝中町)
T 3(1914)		↓ 愛光幼稚園(南条郡武生町)
T 4(1915)		↓ 富貴幼稚園(敦賀幼稚園、敦賀郡敦賀町) 常葉幼稚園(福井市乾中町) 尾上幼稚園(福井市尾上中町)
T 5(1916)		↓ 丈生幼稚園(南条郡武生町) 早翠幼稚園(敦賀郡敦賀町)
T 7(1918)		西津幼稚園(聖ルカ幼稚園、遠敷郡雲浜村)
T 8(1919)	成器幼稚園(大野郡勝山町)	旭幼稚園(大野郡大野町) 大野幼稚園(大野郡大野町)
T11(1922)		鹿苑幼稚園(福井市豊町) 戸泉幼稚園(今立郡粟田部村)
T12(1923)	岡本幼稚園(今立郡岡本村)	三国幼稚園(坂井郡三国町)
T13(1924)	丸岡幼稚園(坂井郡丸岡町) 大関幼稚園(坂井郡大関村)	東郷幼稚園(足羽郡東郷村) 月ノ輪幼稚園(坂井郡三国町)
T14(1925)		木田幼稚園(足羽郡木田村) 鯖江幼稚園(今立郡鯖江町)
T15(1926)	芦原幼稚園(坂井郡芦原町) 新保幼稚園(坂井郡新保村)	松岡幼稚園(吉田郡松岡村)
S 2(1927)	金津幼稚園(坂井郡金津町)	↓ 城ノ橋幼稚園(福井市日之出下町) みどり幼稚園(坂井郡丸岡町)
S 3(1928)		順化幼稚園(福井市佐佳枝中町)
S 4(1929)	花筐幼稚園(今立郡粟田部町)	城東報徳幼稚園(福井市手寄下町) 聖三一幼稚園(福井市宝永中町) 足羽幼稚園(福井市常盤木町)
S 7(1932)		みのり幼稚園(敦賀郡敦賀町)
S 8(1933)		白菊幼稚園(大野郡大野町)
S 9(1934)	文殊幼稚園(足羽郡下文殊村)	↓
S12(1937)	松岡幼稚園(吉田郡松岡町)	森田幼稚園(吉田郡森田町)

※『福井県教育百年史 第1・2巻』(昭和53・54年)を基に作成

### 3 研究内容

#### (1) 福井県の戦前の保育の動向について

『福井県教育百年史』によると、「明治前期、本県には幼稚園の開設は全く見られなかった。これは当時小学校の創設維持に追われたことと、県内一般の関心が幼稚園に対して乏しかったことによるものであった。幼稚園は上流家庭ないし富裕階級の子どもの入園するところであるという偏見が支配し、・・・幼稚園教育の本来の主旨は理解されていなかった。」<sup>4)</sup>ということである。そして、「本県においては、ようやく明治二〇年に至って、小浜町の小学校に付設された保育科として開設されたのが、その嚆矢である。」<sup>5)</sup>と続き、福井県初の保育施設は小濱尋常高等小學校附属保育科（小浜町立小浜幼稚園）であると記されている。

小濱尋常高等小學校附属保育科に続き、明治20年代には、福井尋常師範學校附属幼稚科、宝永尋常小學校附属幼稚科、春山尋常小學校附属幼稚科、順化尋常小學校附属幼稚科の公立幼稚科が小学校に付設され、明治40年代になると栄冠幼稚園、美光幼稚園の私立幼稚園が開設された。

『福井県教育百年史』の記述を基に、福井県における明治20年代から第二次世界大戦前までの保育施設をまとめると、「〔表1〕福井県における戦前の保育施設の状況」のようになる。

#### (2) 小濱尋常高等小學校附属保育科（小浜町立小浜幼稚園）について

『福井県教育百年史』によると、「小濱尋常高等小學校の附属保育科は、明治二〇年九月、大北安之助・武田英藏・江口成徳らの発起により、小学校の一部を借用して私設の保育科を開いた。」<sup>6)</sup>ということである。しかし、明治21（1888）年に小浜町西部に大火があつて保育科は一時閉鎖され、明治22（1889）年5月1日、習長校教員松本玄孝と協合校教員吉田慎平を大阪の愛珠幼稚園へ派遣し、二人が帰校の後両校内に保育科を創設し、氏家フサ・氏家ユカ・牧野ギンを保母として保育を開始したと記されている<sup>7)</sup>。また、名称については、明治32（1899）年には「小濱尋常高等小學校附属保育科」となっており、明治39（1906）年

には「小浜幼稚園」と記されている。

『小濱小學校沿革誌』（明治34（1901）年5月）の「小濱幼稚園沿革記事」には、「抑小濱町二幼児保育所ヲ設置シタルハ其ノ端ヲ明治廿年十一月ニ發キタルモノニシテ大北安之助武田英藏及江口成徳三名ノ發起ニ係レリ爾來創設準備ノ爲メ或ハ各地幼稚園ニ書翰ヲ往復シ或ハ實地保育ノ有様ヲ參觀シ彼レニ質シ此ヲ訪ヒ周旋奔走數月ヲ閲シ遂ニ加賀國金澤幼稚園ノ設備完全ナルヲ知り同國人大野廣氏遠數郡書記トシテ當地ニ赴任セルヲ幸トシ其ノ紹介ニ依リ金澤幼稚園ノ記録書類ヲ得之ヲ參照シテ其ノ組織方法等ヲ講シ翌年三月中旬大北武田同行丹後國舞鶴幼稚園ニ就キテ同園ノ保母福尾菊子氏ヲ聘シ來リ雲濱村深栖辨子ヲシテ保育方ノ傳習ヲ受ケシメ而後當町西部ナル協合小學校舎ノ一教室ヲ借用シ町内有志家ノ幼児二十名ヲ募リ爰ニ始テ實地之ヲ試ムルニ至レリ維レ時明治二十一年五月一日ナリキ當時縣下保育所ノ設アル實ニ我カ小濱町ヲ以テ嚆矢トス」<sup>8)</sup>と記されている。「協合小學校舎ノ一教室ヲ借用」して私設保育所を開設したのは、明治21（1888）年5月1日であるとされており、細かい年月日は異なっているが、大筋では『福井県教育百年史』の記述とほぼ同じ内容となっている。

また、協合小學校の一室を借りて試行された私設の保育所は、基礎が固まり永続の見通しが立った後には小浜町立とすることを目的としていたため、当初の経費は大北・武田両氏が全て負担していたということも記されている。さらに、明治21（1888）年7月30日に小浜町西部で大火があり、協合小學校が避難所に充てられたため、保育場も一時返さなければならぬ状況になり、保育所は一時休業せざるを得なかったということである。そして、「明治二十二年ニ至リ之ヲ町會ニ謀リテ其繼續ヲ請求セシニ町會容易ク之ヲ容レ乃チ東西兩小學校内ニ分設スルコトヲ決議シ兩校ヨリ教員各一名松本玄孝吉田慎平ノ二名ヲ大阪府東區愛珠幼稚園ニ派遣シ保育事項ヲ調査セシメ同年五月兩校各附属保育科トシテ之ヲ設ケ町費ヲ以テ諸經費ヲ辨スルニ至レリ明治二十四年四月習長協合兩校ヲ合シテ小濱小學校ト改稱スルヤ又之ニ附属シ竜田町本境寺内ニ假園ヲ設ク」<sup>9)</sup>ことになった。この

時の「習長協合両校ヲ合シ」た小濱小學校は、東部の校舎（元習長小學校校舎で玉前町と推測される）を第一教場、西部の校舎（元協合小學校校舎で空印寺に隣接していると推測される）を第二教場とした。小濱小學校附属保育科の仮園が設けられた本境寺は、玉前町と空印寺の中間に位置しており、附属保育科ではあるが、園舎は小學校から離れた場所に建てられたということである。

名称については、誰が記録したか不明であるが、手書きで、「明治三十四年九月廿五日 小濱尋常高等小學校附属幼稚園ト改称ス」「全三十六年二月七日 小濱尋常小學校附属幼稚園ト改称」「三十六年五月廿五日 単独シ小濱幼稚園ト改称ス」と付記されている。明治34(1901)年に「保育科」を「幼稚園」に改称し、明治36(1903)年2月には小濱尋常高等小學校が小濱尋常小學校と小濱高等小學校に分離したことに伴う名称変更であり、明治36(1903)年5月には、小學校附属ではなく単独の幼稚園となって改称されたのではないかと推察される。

その他の小濱小學校附属保育科及び小浜町立小浜幼稚園に関する客観的な資料については収集することができていないが、『福井県教育百年史 第2巻』の「福井県学事要覧(昭和16年3月)」を基にした「県下幼稚園一覧(昭和15年度)」<sup>10)</sup>の中に「小浜幼稚園」の情報が記入されており、昭和15(1940)年度までの存続は確認できる。

### (3) 小濱尋常高等小學校附属保育科(小浜町立小浜幼稚園)の現在

現在、小浜市川崎一丁目に小浜市立小浜幼稚園が存在している。戦前の小浜町立小浜幼稚園は現在の小浜幼稚園ではないかと推測し、小浜幼稚園に問い合わせたところ、現在の小浜幼稚園は昭和43(1968)年開設であるという返答が返ってきた。また、昭和43(1968)年1月1日付けの『広報おばま』にも「幼稚園児の募集」に関する記事があり、開園時期は昭和43年4月と記されていた<sup>11)</sup>。さらに、『小浜市学校教育研究集録(昭和43年度)』には、「幼稚園生活一年目」と題して初年度の小浜幼稚園教諭であった山田和子氏の随想的な手記が掲載されており<sup>12)</sup>、現在の小浜幼稚園は小濱尋常高等



【写真1】小濱(協合)小學校跡地。左側に見えるのが空印寺で、初期の私設保育所も校舎内に置かれた。



【写真2】本境寺山門。左手駐車場の所に小浜幼稚園の玄関があったとのこと。

小學校附属保育科の系譜ではないということが明らかになった。

小浜幼稚園以外には考えられず、行き詰まっていたところ、小浜幼稚園長から小浜第一保育園に所蔵されているという「施設の沿革」を送付された。([表2]参照)

この小浜第一保育園「施設の沿革」は、これまで文献で調査してきたこととほぼ同一の内容である。従って、「戦前の小濱尋常高等小學校附属保育科(小浜町立小浜幼稚園)の系譜は、現在の小浜第一保育園である」という確信をもった。

しかし、何故戦前の幼稚園が戦後保育所になったのか、新たな疑問が生まれ、平成23(2011)年12月8日に小浜第一保育園を訪問し、大岸和恵園長から第二次世界大戦前後の保育園の状況について話を伺った。

〔表2〕 小浜第一保育園「施設の沿革」

施設の沿革	
明治 20年 11月	小浜町に保育所設置の端を開く
21年 5月	私立保育所開設
22年 6月	東西両小学校付属保育所として認可
22年 7月	小浜町立に移管
24年 4月	東西両小学校合併 小学校保育科として本境寺に仮園を開く
34年 2月	小浜尋常高等付属幼稚園と改称
36年 5月	町立小浜幼稚園と改称
43年 6月	本境寺横に園舎改築
昭和 5年 6月	保育室および玄関改築
19年 4月	保育所併設
20年 4月	小浜町立第二保育所と改称
25年 4月	地理的關係により第三保育所と改称
25年 7月	調理室新築
26年 4月	市政実施により市立となる
43年 5月	改築 木造面積464㎡
48年 3月	一部屋増築
52年 4月	地理的關係により小浜第一保育所と改称
59年 4月	老朽化に伴い川崎一丁目に移転 小浜第一保育園と改称

※小浜第一保育園所蔵

※明治24年の「小学校保育科」は、「小学校保育科」の誤植であると思われる。

※明治34年の「小浜尋常高等付属幼稚園」は、「小浜尋常高等小学校付属幼稚園」であると思われる。

園長の話では、市役所にも問い合わせたが、当時の資料はほとんど残っておらず、この「施設の沿革」の裏付けとなる資料はないということであった。しかし、園長の実母である宮田玉子氏が、昭和20（1945）年に保育所に就職し、その後も小浜市で保育士及び指導主事等を歴任し、小浜第一保育園の園長でもあったので、何か手掛かりとなることが分かるかもしれないということを聴取した。

園長自身も本境寺にあった保育所に園児として通園していたということで、明治24（1891）年から昭和59（1984）年に現在の川崎一丁目に園舎が移転するまで、名称は何度も替わりながらも、一世紀近く、園は同じ場所（本境寺）にあったということを確認した。

#### (4) 宮田玉子氏への聞き取り調査

平成23（2011）年12月23日、小浜第一保育園長大岸和恵氏とともに本境寺近くの宮田玉子氏の

自宅を訪問した。宮田氏は昭和2（1927）年生まれで、すでに80歳を超えていらっしゃるが、矍鑠としたご様子で当時の思い出を話してくださった。



〔写真3〕 宮田玉子氏

聞き取り調査の内容は以下の通りである。

#### ① 昭和20年前後の小浜第一保育園

宮田氏は、昭和20（1945）年4月から学徒動員という形で、女学校に籍を置きながら戦時保育所に勤めていた。当時は幼稚園園長、幼稚園職員4名、保育所長（本境寺住職）がおり、宮田氏ともう一人の学徒動員の女子学生（5月、小学校教員養成所に入学するため退職）は、幼稚園職員の手伝いのような仕事をしていた。幼稚園と保育所の区別はなく、年齢別に分けて保育しており、全体が戦時保育所だったと記憶しているそうである。

戦前は幼稚園で、2年保育と1年保育があり、2年保育は裕福な家庭の子どもが通っていた。1年保育は小学校に行く前の1年だけで、普通の家庭の子どもが通っていた。戦時中はそれを解体して、保護者のために2年、3年保育が主流となった。

戦時中、B29が来て警戒警報が鳴ると、お迎えに来てもらえない子どもたちを守るために、本堂の下に保育所の畳を持ち込んで、机でガードし、子どもたちを押しこんで、お迎えが来るまで避難していたとのことであった。

終戦直後、幼稚園の職員のうち年配だった3名は退職し、園長も辞めて、終戦とともに戦時保育所は小浜第二保育所になった。所長はそのまま本境寺の住職が就いた。宮田氏は、県



〔写真4〕 本境寺本堂の下。戦時中、この中に子どもたちを避難させた。

に研修に行って保母の資格を取り、そのまま保育所で働いた。

小浜第一保育園「施設の沿革」では、昭和20(1945)年4月に「小浜町立第二保育所と改称」と記述されているが、記憶は定かではなく、採用の辞令があれば、赴任したのが戦時保育所であったのか小浜第二保育所であったのかの確認ができるが、辞令をもらったかどうかの記憶もないとのことであった。戦時中はいろいろなことがややこしかったということで、辞令もなかったかもしれないそうである。あるいは、小浜町立第二保育所が戦時保育所だったという可能性もある。推測の域を出ないが、同じ園舎に小浜幼稚園と小浜町立第二保育所があり、園長と所長がおり、職員もそれぞれに所属しているが、一つの園として一緒に保育を行っていたとすれば、現在の幼保一体化施設と同じような形であったのかもしれない。さらに言えば、その一体となった施設を「戦時保育所」と呼んでいたのかもしれない。

## ② 戦後の小浜第一保育園

戦後は、保育所の定員以上に子どもが多く、保育所で預かることができない「保育に欠けない子」のために、公会堂（現在のふれあいセンター）の場所に私立の託児所が作られた。それが昭和43年開設の小浜幼稚園につながっているのではないかとのことであった。さらに、本境寺の境内にある小さなお堂を借りて、その中で未満児の保育も行っていた。



〔写真5〕未満児を保育していたお堂

小浜町立保育所の名称は地理的状況と関連が深い。終戦直後、西津地区の保育所が第一保育所、本境寺の保育所が第二保育所だったが、昭和25(1950)年に雲浜地区に保育所が開設されて第二保育所となったことで、本境寺の保育所は第三保育所と改称された。昭和26(1951)年には市政実施により小浜市立第三保育所となり、昭和52(1977)年には、第一保育所が西津保育所、第二保育所が雲浜保育所に改称されたことに伴い、本境寺の保育所は小浜第一保育所と改称された。そして、昭和59(1984)年に現在の川崎一丁目に移転し、名称も現在の小浜第一保育園となった。

昭和59(1984)年には小浜幼稚園も同じ川崎一丁目に移転し、「同じ幼児教育を受けさせてやりたい」という当時の市長の方針で、幼稚園と保育所が同じ地に並び立ったということである。そして、平成25(2013)年度から、小浜第一保育園・小浜第二保育園と小浜幼稚園が一体化し、認定こども園となる予定である。

## 4 おわりに(まとめ・今後の課題)

明治21(1888)年に福井県の保育施設の嚆矢として小浜町に誕生した私設の幼児保育所は、小濱尋常高等小學校附属保育科から小濱尋常高等小學校附属幼稚園、町立小濱幼稚園になり、戦時中には保育所を併設し、戦後は、小浜町立第二保育所、第三保育所、小浜市立第三保育所、第一保育所、第一保育園と、時代の流れの中で何度も名称を替え、体制を変えながらも、子どものための保育施設として、現在まで一世紀以上連続と流れをつないできた。そして、平成25(2013)年度から、認定こども園として再出発(re-start)しようとしている。この事実を明らかにすることができたということが、本研究の大きな成果として挙げられる。

しかし、今回は、客観的な資料を基に小濱尋常高等小學校附属保育科の沿革を検証することができなかった。今後、福井県学事年報や福井県統計書等の信憑性の高い資料を基に、今回明らかになった小濱尋常高等小學校附属保育科の沿革を確認していきたい。

また、「福井県における戦前の保育の動向」と

いう点では、まだ一園の沿革を捉えたにすぎない。「〔表1〕福井県における戦前の保育施設の状況」の全ての園についての沿革を明らかにすることは困難であるかもしれないが、今後も一園一園明らかにしていき、縦軸と横軸を紡ぐように福井県における戦前の保育施設の状況をより重層的に捉えることができるよう、調査を進めていきたい。

#### <注>

- 1) 福井県教育史研究室編『福井県教育百年史』  
(第1・2巻、福井県教育委員会、昭和53・54年)
- 2) 『小濱小學校沿革誌』(明治34年5月)一頁
- 3) 同 上 九頁
- 4) 『福井県教育百年史 第1巻』876頁
- 5) 同 上 879頁
- 6) 同 上 879頁
- 7) 同 上 880頁
- 8) 『小濱小學校沿革誌』九頁
- 9) 同 上
- 10) 『福井県教育百年史 第2巻』431頁～432頁
- 11) 『広報おばま(1966～1969)』162頁
- 12) 『小濱市学校教育研究集録(昭和43年度)』  
(小濱市教育委員会、昭和43年度)117頁～118頁

#### <謝辞>

本研究にご協力いただいた宮田玉子様、小浜第一保育園園長大岸和恵様、小浜第一保育園・小浜幼稚園・小浜市立図書館の皆様にご心より感謝申し上げます。

#### <付記>

本研究は、平成23年度仁愛女子短期大学共同研究「戦前の福井県における幼児教育・初等教育の動向について」(研究代表者：増田翼)における研究成果の一部である。